

県政タウンミーティング会議録

開催日時 令和4年6月10日（金）16：45～18:00

開催方法 オンライン開催

テーマ 高校生と考えるこれからの長野県

参加者 10人

【総合政策課長 小林真人】

それではこれから県政タウンミーティング、高校生の皆さんと知事との対話を始めたいと思います。私は、長野県の総合政策課長の小林真人でございます。よろしくお願いいたします。

現在、長野県では向こう5年間の総合計画の策定に向けまして、さまざまな世代の方との意見交換を重ねているところでございます。今日は高校生の皆様と知事との対話を行わせていただいて、5か年計画の策定に活かしてまいりたいと思っております。それではよろしくお願いいたします。

【事務局】

ではここで、長野県知事からごあいさつさせていただきます。

【長野県知事 阿部守一】

こんにちは。阿部守一です。よろしくお願いいたします。今日はタウンミーティングに参加をしてもらいまして、大変ありがとうございます。

総合計画って、イメージわかりますかね。長野県では、いろいろ県の仕事を進める上で、いろんな計画を作って、私は正直言って計画が多過ぎじゃないかと思っておりますが、いろんな計画を国に作れと言われて作っている計画も結構あります。この総合5か年計画は、別に国から必ず作れとか言われているものではなくて、県が主体的に作る計画でありますし、また例えば教育であったり福祉であったり産業振興であったり、まちづくりであったり、いろんな分野の仕事を長野県ではしていますけれども、そうしたいろいろな施策を横断的に一体化して作っていく、そういう計画です。

そういう意味で、なんというか、皆さんも聞いたことがあると思いますが、国の役所は縦割りになっています。農水省は農林水産行政を一生懸命やってくれているし、厚生労働省は福祉だとか医療だとか労働だとか、一生懸命やってくれていますけれども、実は今の社会というのは、一つ一つの分野だけでは課題解決が完結しないことがたくさんあると思っております。例えば、人材の育成も、介護人材の育成、農業人材の育成、あるいは工業、工場で働く人材の育成とか、縦割りでどうしても行政はやってしまいがちですが、人間の行動は縦割りで動いているわけではないので。例えば皆さんもこれから就職しようかと思ったときに、分野ごとになんかあまり考えていないので、いろんな仕事を視野に入れながら自分の進路を考えていると思っております。そういう意味で県の総合計画というのは分野横断的にもものごとを考えていく、非常にいい機会でもありますし、また私としては是非

若い皆さんに期待するのは、これまでの発想にとらわれずに、未来に向けてこんなことや
らなきゃいけないんだという、大胆な提案を是非してもらいたいと思っています。

私、今 61 歳ですので、皆さんの世代とは相当違っているわけでありまして。おそらく皆
さんが見えている社会と私が見ている社会は少し違うのかなど。同じ時代を生きていても、
たぶんこれまでの経験とかあるいは、どちらかという私の場合は過去 60 年間のいろい
ろな長い歴史が頭の中にインプットされているので、逆に最近の社会的な動きには疎いと
ころがあると思います。どちらかという仕事をやっているの、今これがはやっている
よ、とか、これから若者こんなことしたいんだっていうことは、正直言って分からないこ
とがたくさんあると思っていますので、是非皆さんからは率直な、遠慮しないで、どんど
ん大胆な発言、提言をしていただければありがたいと思っていますので、よろしくお願
いいたします。今日はありがとうございます。

【事務局】

では最初に皆さん画面に見えている左上の A さんから、順番に自己紹介をお願いします。

<参加者自己紹介>

【事務局】

皆さんありがとうございます。今日皆さんからお伺いしたいお話なんですが、具体的に
していらっしゃる活動内容、それからそういった活動に取り組もうと思ったきっかけ、そ
ういった活動を通してどんなことを皆さん実現されたいのか、まずこんなことをお伺いし
たいと思います。その中で、また活動を通して新たに見えてきたことですか、活動をさ
らに充実、広げていくために必要なこともあるのかなどと思っています。その中で、私たち、
例えば長野県なり、行政なりが一緒になってできることなどを皆さんと意見交換できれば
と思っています。よろしくをお願いします。では最初に、A さん、B さん、C さんに少しお
伺いしたいんですが、今 3 人の皆さんがグループでどんな活動をされていて、どんなこと
を考えていらっしゃるかというのを少し教えていただいてもよろしいでしょうか。

【参加者 A】

代表して私の方からお話をさせていただければと思います。資料を共有させていただい
ても大丈夫でしょうか。

【事務局】

はい、お願いします。

【参加者 A】

はい。軽く私たちが関わっているプロジェクトについて説明させていただければと思
います。私達のプロジェクトは、長野県の高校生から一体となり長野県の中に住んでいる人

を繋ぐ、そしてこの活動を未来につないでいく、今の環境であったり、SDG s も関わってくるんですけれども、今の環境を未来につないでいこうということをテーマに活動しているプロジェクトになります。今、一緒に県内の高校等6校で運営しています。具体的に何をやっているかといいますと、3つあります。

1つ目はSDG s 活とって、このプロジェクトに参加している学校の生徒会長などが今一緒に運営しているんですけれども、その各学校でSDG s 活、社会問題にアプローチできるような活動を行おうというものになっています。例を挙げますと、私の高校では、脱ペットボトル with マイボトル、という企画を1月に開催しました。コロナの関係もあって、正確な数値は取れたりしなかったんですけれども、この企画を行うことで、マイボトルを使用する生徒が増えたという結果が出ています。また一緒にプロジェクトを運営している他の学校では、クラスマッチでポッチャを行いました。SDG s というよりは、社会的な問題というところに関わると思うんですけれども、各学校でユニークな、SDG s の社会問題へのアプローチとなる企画を行っています。

2つ目に、灯ろうの企画を行っています。この企画はSDG s や社会問題に対して、直接的に関わるわけではないんですけれども、灯ろうというのはこの土の筒になるんですけれども、この上の白いところは紙になっていて、紙に願いごとを書いて、くるくる丸めて筒に挿したものが、私たちが呼んでいる灯ろうになっています。未来へつなぐということ为先ほど説明させていただいたんですけれども、私たちが生きる未来をもっと具体的に考えて、今行動することを考える必要がある、ということを考えています。なので、この灯ろうの、紙の願いごとのところ、未来への希望を書いてもらうことで、今自分たちができることを考えられる企画になるんじゃないかと思っています。また、SDG s だったり社会問題に興味がない生徒が私たちの周りにいることを強く感じています。全く興味がないということではないんですけれども、学校とかで行っていても、なかなか自分ごととして考えられなかったりという人も多いのかなと思っています。この企画を通して、私たちがこういうふう活動しているんだということを知ってもらうきっかけとなり、さらに社会問題やSDG s に関わっていけるというきっかけになればいいなと考えています。

3つ目に、高校生サミットになっています。今企画しているのが、7月10日に長野県と静岡県の高校生がオンラインでつながってやるというものになっています。長野県側と静岡県側でそれぞれ一つの場所に集まって、その2点をつなぐというハイブリット体制になるんですけれども、この静岡県とのサミットを考えたきっかけというのが、長野県も静岡県も地方と言われていて、静岡県って海があって、長野県は山の県といわれていて、いろんな違いというところから、高校生の意識の違いがあるんだなって考えています。このサミットは初めてなので、どんな感じになるのかまだ分からないんですけれども、何か高校生の新しい視点、新しい見方を共有できる企画になればいいかなと思っています。私たちの軽い紹介はこれで終わりにさせていただきます。ありがとうございます。

【事務局】

ありがとうございます。次にDさん。簡単に紹介をしていただいてもよろしいでしょうか。

【参加者D】

はい、同じく画面共有をさせていただきます。では紹介させていただきます。私がやっているプロジェクトは、みんな輝く、シャイな人も輝いているっていうもので、コミュニケーションを取ることに自信がない人だったり、自分の力を活かしたくても活かす場がない人たち、私も今通信に通っていて、周りにたくさんいるんですけど、本当にみんなすごい可能性を持っていて、それを自分の得意なことだったりを活かしていったら、すごい、今はちょっと自信がないけど、また社会と関わっていくきっかけになっていくんだなと思って、自分の得意なことを活かして、すでに社会と常に積極的に関わってきた人とコラボして、一つの場所づくりを展開していくプロジェクトになっています。

昨年度の活動を紹介させていただきます。いくつか、ものづくり系だったり、スポーツイベントだったり、その中で一番大きな活動とかきっかけが、演劇公演を行いまして、これは通信制だったり定時制だったり、私立とか公立とか、学校の枠を越えてみんなでミーティングを重ねて、衣装だったり台本から自分たちで作って、当日は芸術館のアクトスペースをお借りして開催したんですけど、90人を超えるお客様に観劇していただいて、本当にみんなお客様が涙を流して、感動したって言うてくれたりとか、一番うれしかったのがやった自分たち、役者の出演した人たちがすごい自信になったとか、すごくいい体験ができたと言ってくれていて、本当にやってよかったなと思っています。短かったんですけど、簡単な紹介でした。ありがとうございます。

【事務局】

ありがとうございました。では次、EさんとFさんのグループ。どちらか代表でお願いします。

【参加者E】

私たちは、昨年度の1年間、諏訪市のすわともカードという、ポイントカードについての研究をしました。こちらがそのカードになるんですけども、このカードは今諏訪市のみで利用できるカードになっていまして、利用者が非常に少なく、これをいかに増やしていこうかということで研究を進めてきました。私たちは今、最終的に、観光業などと結び付けるようなかたちでこのサービスを拡大できるだろうと考えています。私たちからは以上になります。

【事務局】

ありがとうございます。それではGさん、Hさん、Iさん、Jさんのグループから、御紹介をお願いしてもよろしいでしょうか。

【参加者G】

それでは説明させていただきます。私たち、この二人は中学2年生の時に学校の制服が男女で別に分かれていることに疑問を持って、学校の制服を全廃することを目指して関係活動を行っています。現在さまざまな学校で導入されているジェンダーレス制服を批判的な視点から見て、LGBTQの生徒が気がねなくジェンダーレス制服を着用するには、

学校全体の雰囲気づくりが必要であること、また価値観に世代間格差が生まれてしまっている、大人と生徒の話し合いや対話が必要であるということが分かりました。どうやってルールと意識の両方を変えていけばいいのかを追究するとともに私はマイプロジェクトに参加し、ジェンダーレス制服はもう古い、という新たな視点から、インディビジュアルスタイル制服を実際に作りたいと考えています。これは、そもそも性別というのは人の数だけあると考えるからです。なので性別という概念にとらわれず、私たちが新しい制服をデザインすることで、ジェンダーレス制服のジェンダー差別は埋まるのではないかなと考えています。

【参加者H】

私たちは長野県の観光について調べています。マナーが守られ県民の気持ちが尊重された、子どもから大人まで楽しむことができる長野県の観光のあり方を考えています。長野県は今、そこに暮らしている人も、訪れる人も、幸せを感じられる世界水準の山岳高原リゾートを目指し、観光の目標を設定していますが、新型コロナウイルス流行前もその目標は達成されていないという広告を読みました。そこで私たちは、長野県が今制定している、山岳高原リゾートでは県外の人からのニーズに応えきることができないのではないかと思ひ、何か長野県の観光を盛り上げる未発掘部門のコンセプトを考えたいと思っています。以上です。

【事務局】

皆さんありがとうございました。皆さん本当に社会とか地域に興味を持たれていて、しかもその着眼点というのが、非常に多様、幅が広いなというのを非常に感じました。ありがとうございます。また、皆さんにいろいろお聞きをしていきたいと思うんですが、知事から皆さんに質問してみたいことはありませんか。

【長野県知事 阿部守一】

はい。まず、どうもありがとうございました。皆さんと少し考え方を共有して深めていきたいと思ひます。今発表してもらった順番で、少し話をすると、Aさんからは、SDGs、私も今マイボトルをなるべく使うようにしていますけれども、地球温暖化、気候変動の問題があったり、あるいは今エネルギー価格が高騰する中で、ロシアのウクライナ侵攻等もあって、非常に世界情勢は今までにないほど緊迫感があると同時に、今までは国境なんてそのうちなくなっちゃうんじゃないかくらいにグローバル化して、企業も世界中に、例えば、いい悪いは別にして、もっとも人件費が安いところにもものを発注して、あるいはそこに進出したりして、安い労働力を使ったりということで、必ずしも社会的な公正さだとか、地球環境の制約だとか、そういうことを考えずにいろんな行動をしてきた企業や団体も多いし、個人の活動も、あまりそういうことをこれまで意識していない状況でも、なんとか済んでこれた。私、先ほど、世代ギャップがあるんじゃないかということの一つに、私は1960年生まれなので、さんざん高度経済成長の時に若い時代を過ごしていましたので、皆さんに対しては大変申し訳ないなと思っています。CO2を抑制するなどという発想は全くなかったですし、廃棄物を削減するとか産業エコノミーにしていかななくてはいけ

ないなんていうことも、全く若い頃は意識しなくて、それは私に限らずみんなそうだと思いますけれども、とりあえずどこかから資源を持ってきて何か作って、いらなくなったら捨てちゃってことが、たぶん染みついてしまっていると思っています。だけどこれからの社会はいかに地球環境と共存していくかということを経済人類自身が真剣に考えないといけない時代でありますし、また格差とか均衡の問題、これグローバルな視点でもあるいは国内の問題でも、本当に先ほどジェンダー、LGBTQの皆さんも含めた差別のない社会をどうするかという話もありましたけれども、本当にみんなが幸せを感じられるような社会になっているのかということを経済一度改めて考えなくてはならない時代に来ていると思っています。私が一方的に演説してもいけないので、まずAさんのプロジェクトは、非常にいいことだなと思って。いいことだなんていうのは、社会的な課題を意識するっていいことだけではなくて、つながるといことは今非常に重要だと思っています。社会が今、どんどん分断されていると思っています、これはアメリカのトランプ、支持派と支持しない人との分断だけではなくて、例えば国際社会の中でも、ロシア、親ロシア、反ロシアみたいな話とか、あるいは親中国、反中国みたいな話とか、少し前までは、みんな仲良く共同共栄、発展していきましょうねという感覚が非常に強かったと思いますけど、今国際社会においてもだんだんブロック化し始めているんじゃないかと思ったり、国内社会でも、いろんな格差、所得の格差であったり、あるいは都会と地方の格差であったり、あるいはさっきもちょっと言いましたが世代間の一種の格差であったり、非常に分断化されつつあるなと感じているので、分断された社会は非常に未来がないと私は思っていて、やっぱりお互い同じ課題認識をもって、同じビジョンを持って、みんな力で力を合わせていかないと、さっきの気候変動の問題にはとてもじゃないけど解決できるわけがないので、そういう意味でつながるといことは非常に私も重要だと思ってお話を伺いました。是非、Aさんたちが活動していくに当たって、行政にはあまり期待していないのかもしれないんですけど、こんなこと県でもやったらいいんじゃないのとか、私たちがやってるこんなこと、もうちょっとアピールしろとか、もっと応援しろとかいうのが何かあったら教えてほしいんですけど。どうですか。

【参加者A】

そうですね、行政の方々に。さっきおっしゃっていた、分断されているということは学生の立場としてすごく感じていて、コロナ禍が一番影響してはいるんですけど、友達と会えなくなる期間もあるし、他の学校の子だって、本当は文化祭とかで他の学校の人に来て、学生会の人とかと会ったりして、先生方もつながったりという部分があったと思うんですけど、私今3年生なんですけど、ちょうど入学した年からそういう外部との、学校外とのつながりというのはほぼなくなってしまって、私がこのプロジェクトをやりたいと思ったきっかけもそこにあるんですけども、是非行政にお願いしたいなと思うのは、こういう場を、今回のこのタウンミーティングもそうなんですけど、他の学校の方とつながれる機会がもっと欲しいなということと、あと、SDGsとか社会問題に関して、やっぱりまだ意識が学生は薄いかないところも、自分たちの身の回り、自分に関しても感じているので、その時学校でやる企画があるって、さっきお話をさせていただいたんですけども、その企画とかに関して、指導をいただけたらとか、こういう案もあるんじゃないという、行

政の立場からの意見をもらえる機会があったらすごく面白いのかなと思っています。以上です。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。是非、意見を言うなんていうおこがましい話ではなくて、一緒にやれるといいなと私は思っていて、さっきから言っているように、私もいろんな考え方を持っていますけれども、私の考え方はたぶん皆さんから見るとちょっと古いなというふうに感じることもあるし、もう誰が中心だとかということではなくて、私はフラットな社会を作っていきたいなと思っていますので、是非高校生の皆さんでSDGs、長野県はSDGs未来都市になっていろんな取組も進めているので、一緒にやりたい人たちをつないでもらえば、われわれ県も一緒に関わって、いろんな取組をしていこうというふうに動いていきたいと思います。例えば、白馬高校の人たちが、断熱改修のプロジェクトを地域の皆さんに協力してもらいながらやったんですけれども、あれって今、県としては全県プロジェクトにしていこうと思っています。だからオリジナルは白馬高校の生徒たちが考えてくれたんですけれども、県の立場はそのアイデアを真似させていただいて、広げていこうと思っていますので、たぶん私たち行政ができることもたくさんあると思いますし、逆に若い皆さんがどんどんアイデアを出して行動できることもあると思うので、是非協力しながら進めていけるようにしていきたいと思っていますので、ありがとうございます。

【参加者A】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

それから、Dさん、活動のお話を聞かせてもらいましたけれども、なかなかコミュニケーションが苦手だなという人たちをしっかりと社会のコミュニティの一員として受け入れていくということ、これからの社会にとって非常に重要だと思っているので、是非活動を継続していってもらいたいと思いますけど、本当は半分われわれ行政がやらなきゃいけないようなことをやってもらっているんだというふうに思っています。実際、やってもっといろんな人たちが社会にもっとつながれるような仕組みを作るには、どんなことが行われれば進んでいくと感じていますか。

【参加者D】

そうですね、やっぱり、まずはそういうちょっと中学校とか高校で何かあって人と話しくなくなってしまうとか、自信がなくなってしまう人たちがなんでそうなっちゃったのかな、と考えるのがすごく大事なのかなと思っています、本当に今不登校の人とかも増えていると思っています、僕は小中学生の時に、フリースクールに通っていたんですけど、今はそういう不登校が増えていて、なかなか学校、公立に行けなくなっちゃった人たちが、ただ家にこもってしまったら、本当に、先ほど3つ言ったとおり、分断社会、不明社会になっちゃって、経済がどうだとかいってらんないと思うんですよね。みんなひきこもっちゃったら本当に何も回らないと思うので、まずは何か学校以外の対話を学びの場というの

を、いろいろやられていると思うんですけど、さらにフリースクールとか経営されている人たちとコミュニケーションを取りながら進んでいったら、だんだん、それでまずは、ちょっとコミュニケーションを取りにくくなってしまった人たちと得意なこととかを活かしてあげたりとか、まずはその人たちが、自分を必要としてくれているというのは僕はすごい大事だと思っていて、僕自身自分を必要としてくれている場所に自分が行きたくなるんですよね。僕の通っている学校は通信なんですけど、本当にほとんどの子が毎日通ってきて、規模は小さいんですけど、自分で企画してイベントとかを学校内でやっていて、それは本当に自分が必要とされていると思っているんじゃないかなと思っているので、そう思っていくとまた社会に戻っていく、戻っていきたい。やっぱり人と話したりするのって本当に大好きなんですけど、楽しいじゃないですか。だからそういう感じで知ってもらって、また社会に戻っていけるきっかけになっていけばいいんじゃないかなと思うので、そういう機会を増やしていけたらいいのかなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございます。さっきちょうど県の職員に対話の学びの場をもっと応援してね、っていう話をしたところなんですけれども、もう少し教えてもらいたいのは、なんで不登校になっちゃったり、なんで人とのつながりを拒絶したりしたくなるのかって。Dさん自身の話でも、他の方のケースでもいいけど、その要因って、どんなふうに考えてますか。

【参加者D】

そうですね。周りにはやっぱりちょっと学校に行けなくなっちゃって、私と同じフリースクールに行きたくってという方たちも何人かいたんですけど。なんででしょうね。原因が一つでは絶対ないと思うんですけど、中学校までに何か、高校でもあるかもしれないですけど、中学校までに何かあったのかなと思っています、それが何かっていうのは、僕も今探してるっていうか、考えて探求しているところなんですけど、一つ僕が思うのは、点数で結構評価する世の中だと思うんですけど、僕もそうなんですけど、勉強することは好きなんですけど、テストで点をすごく取れるかっていったら全然取れないので、そういう感じで、勉強、座学とか以外の、体験型の授業みたいな、私が通っていたフリースクールでもよく芸術体験とか自然体験とかをすごい大事にしているんですけど、そこから得る学びっていうのも僕の中でもめちゃめちゃ生きていて、なので、点数だけじゃなくて、やっぱり点数制で評価されちゃうと自分の才能とかが活かされていく人とかも何人か見てたりするので、点数以外のところでも評価したらちょっとずついいのかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。Bさん、手を挙げているのかな。

【参加者B】

すみません、いいですか。

【長野県知事 阿部守一】

どうぞ。どんどん手を挙げて、参入して。どうぞ。

【参加者B】

はい。自分の体験なんですけれども、小中学校の時とかに、いじめられちゃったこととかがあって、自分自身では担任の先生との出会いとかがあって前向きに、いじめてきた相手とか、自分にも非があったんじゃないかなって思って、いじめとかに前向きに考えて、僕もDさんと同じように、話し合う、話すということがとても好きなので、Dさんのプロジェクトにとっても感銘を受けました。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、どうもありがとうございます。ちょっと横でつながってってもらえるといいなと思いますので、是非よろしくお願いします。

私も学校好きじゃなくて、高校途中で変わったりしている。私がいろんなところで言っているのは、さっきの多様な学びの場が必要だよねっていう話をDさんがしてくれましたけれども、日本の教育、画一的なわけですよ。画一的な学校で日本の社会って今まで成功してきたと私は思っているんですが、これからは画一ではとてもこれからの社会には対応できないし、何よりも一人一人の子どもたち、生徒たちにとっては、自分の行動パターンとか、自分のやりたいことに合わない、学校に行きたくなくなっちゃうな、っていうのは結構あるんじゃないかと思います。社会って多様じゃないですか。社会の働く場とかって、いろんな働き方もあるし、いろんなことがあるけど、学校はやっぱり同じ感じですよ。学校、ちょっと長野県、空間デザインで高校の校舎の作り方から変えていこうと思っっていますけれども、まず学校って皆どこでも同じつくりをしているし、なんとなく同じ方向を向いて先生の話の聞いている。最近、探究型の学びも増えているけど、なんか画一的で、しかも学習指導要領で何年生では何を勉強しましょうって決められちゃっているから、そのペースと合わない子っていますよね。私、どちらかというとじっくりやるタイプであるので、今でも仕事は遅い方だと思っているんですけども、ぱぱぱっとやれちゃう子もいれば、じっくりやる子もいるけれども、スピードは標準化されちゃっているんで、それって本当はすごく能力がある人にとっても合わないし、学校の勉強苦手だけども本当はもっとじっくり教えてもらえれば分かるのにな、という子にとってもなかなか合わないというのが、今の学校になっちゃっているんじゃないかと思っていますので、少しそういうことも含めて教育のあり方を考えていかなきゃいけないと思っています。どうもありがとうございます。あと、EさんとFさんのチームで、すわともカードの話をしてもらいましたけれども、これって利用者が少ないって、もうちょっと仕組みと今何をやっているか、教えてもらっていいですか。

【参加者E】

今現状として、諏訪市の人口が4万人いるんですけど、その中で2020年にできた後、6,500人ほどしか利用者がいない状況です。今は、このカード自体の活動としては商業施設でのイベントと、あとは日常的なポイント、お店での利用しかない状態です。その状態

を見て我々はなぜ利用者はいないのかと、うちの学校の生徒に対しての認知度のアンケートをやったり、今後どうしていったらいいかなどを考えました。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。これってポイントは買物するともらえるってことなの。

【参加者E】

はい。加盟店ですね、このポイントを登録している加盟店でお買い物をすると100円につき1ポイントがもらえて、それが貯まった段階で、ポイントを1円として換算して使うこともできるし。

【長野県知事 阿部守一】

そのポイント原資というのは、その加盟店の人たちが負担するの。どういう仕組み、誰がその仕組みを支えているんですか。

【参加者E】

それはお店の側で負担されているかたちになっています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。皆さんの研究結果としては、どうすればもっと利用が拡大するというふうに思っていますか。

【参加者E】

今現状として、規模がすごく小さいので、諏訪市だけってなってしまうと、どうしても利用者の母数が減ってしまうと考えました。なので、最終的に目標としては6市町村、諏訪市、岡谷市、茅野市、下諏訪町、原村、富士見町で、このカードのシステムを一つに統一した状態で使えるようなカードを目指したら、より便利で規模も大きくなるのではないかという結論に至りました。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。ありがとうございます。これって何か市町村には提案しているんですか。商工会とか商工会議所には、みんなと一緒にやったら、とか言っているの。

【参加者E】

現状なんですけど、今、諏訪市で活動しているので、諏訪市の役場の方に話をしている段階ではあるんですけど、正直話はあまりできていないのが現状です。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。

【参加者E】

それ以外に、私たちの方で諏訪市の商工会に話を持ち掛けていきまして、商工会の方でやっている、スーパーシティ構想の、6市町村合併の中に、このすわともカードも組み込んでいくことはできないかという話をしてきました。それでなんですけれども、6市町村の方で話しているカードをちょっと別で、私たちのカードの中ではちょっと特殊というか、できている仕組みとして、お客様の個人情報がかかなり正確に入っています。今利用者側で限度額が1,500円とものすごく少ないんですけど、漏洩だったりという事故が少ないので、今後、観光客も考えてはいるんですけども、ちょっとお話したいのは、個人情報を使う、例えば小中学生の身分証明書のようなかたちで、今後コロナ禍で学生がどこに行ったかという情報も必要だと思うので、それをこのカードの個人情報を使って集めて保護者に回したらどうかと。小学校にいつ行ったのか、身分証明書のようなかたちで使えないかというふうに、お話したいなど。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。それはちょっと県も一緒に考えさせてもらえたらありがたい。私は昔から地域通貨に関心を持っていて、最近はあまり深く考えていないんですけど。さっきグローバル社会が分断型になりつつあるなど話しましたが、グローバルな人の行き来とか物の出入りといったものは、私は維持していく必要があると思います。例えば食料みたいなものをむやみやたらと海外から持ってきているっていうのは、やっぱりまずいなど。そういう意味では地域内で一定程度、物の循環、無理してやる必要は必ずしもないんですけど、本当は地域でこういう物を作っているのに、なんでわざわざ遠くから持ってくるの、みたいな感覚で、できるだけ地域で物のやりとりをしてもらうとお金もしっかり回るし、地域のこともみんなで考えて発展させていくことができるので、そういうツールとしての地域通貨みたいなことで是非やれないかなと思っているので、ちょっと誰か一緒に考えて。総合政策課はそこまで余裕がなくて、ちょっと今は計画づくりに注力していて大変みただけで、皆さんの活動の報告はまた今後もしてもらえると嬉しいし、是非一緒に何か考えられれば。若手の経済人の人たちも地域通貨に関心を持っている人たちもいるので、私、一から十まで関与はできないんですけど、つなぐことはできると思うので、またそういうところで一緒に考えてもらえればと思いますので、よろしくお願いします。

【参加者E】

ありがとうございます。よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

あとGさん、Hさん、Iさん、Jさんお待たせしました。まず、制服の関係から。この制服プロジェクトは今どうなっているの。

【参加者G】

今も関係活動は続けているんですけど、例えば、私たちの学校は、女子はリボンで男子はネクタイというのが決められていて、私たちはそのリボン、ネクタイっていうのが制約

されている点はなくしていきたいって考えているんですけど、まだそれがなくせていないというか。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。この間、さっき少し話した、学校のデザインのあり方を変えてしまおうって、空間デザイン検討会で報告を受けて、県立学校の校舎のデザインをもうちょっと地域と交流できるようにするとか、あと画一的な教室のスペースじゃなくて、廊下ももっと広くして、みんなで語り合える場を作ろうとか、そういうことを話した時に、今お話のあった、高校生からまず校則、学校のルール、なんで自由に変えられないんだみたいな話があって、私はもっと自分たちで変えられるようにした方がいいんじゃないのっていう話をしたのですが、これって、学生服って誰がどうやって決めているの。校長先生が決めているのかしら。

【参加者G】

私たちの今の制服のデザインは20年前の生徒さんが専門学校の生徒さんと連携して作られた制服です。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。じゃあ伝統があるというか、誰かが勝手に押し付けたわけじゃなくて、当時の生徒の皆さんが考えた上で作ったものなんだ。そうするとそれをどうやって変えていくのかっていうのは、みんなでよく考えていかなきゃいけないところですけども、校則であったり制服であったりというのを、最終的に決めている権限がある人は誰なのかということと、それに対して生徒の皆さんがどういうかたちで声を出して一緒に考えていくかというのは、実は民主主義社会をどう具現するかということと、極端な話かもしれないですけど、直結している話かなと思っていて、世の中のいろんなルールってなんとなくみんな変えられないというふうに感じていることが多いかなと私は思っているんですけども、世の中のルールってほとんど変えられるわけですよ、本当は。だってみんな社会科で習ったと思いますけど、国民主権なんで、皆さん一人一人、私も一人の国民として、主権者です。だけど一人で声を上げたり一人で行動しても誰もついてきてくれなかったら何も変わらないけど、二人くらいが声を上げてそれが多数派になれば民主主義社会はそれに従って変えていきましょう、もちろん基本的人権を守ったり、少数者の意見も尊重するということがあって、単に多数決で押し切るということだけではなくて必要だと思いますけれども、基本的に多くのルールは本来は自分たちの意思と行動で変えられるし、変えられなかったらそれは民主的な国じゃないと思うので、デザインの問題もそうだと思いますけれども、そういうものの仕組みをどう変えるか、皆さん制服の問題に取り組まれますけれども、日常暮らしていて何かこのルール変だなとかこれ変えてもらった方がいいんじゃないのって感じたことを、われわれ行政と一緒に考えられればいいかなと思って。ちょっと別の観点の話になっちゃって申し訳ないですけど、お話を伺いました。何か皆さんから意見はありますか。

【参加者B】

はい。今私も学校の制服を着ているんですけども、制服に関して結構疑問を抱いている時があって、制服に限らず校則もなんですけど。うちの学校ではツーブロックが禁止っていうのがあって、他の小中高でもあると思うんですけど、今一般的に言われている髪型が、僕の意見なんですけど、ほとんどがツーブロックありきの髪型がとても多いと思うんですよ。それで、この切り方がだめと限定しちゃうと、他のものが生まれなかつたりとか、じゃあどういう切り方したらいいのっていうことになってしまうと思うので、校則自体を一回先生達と話し合っ、ツーブロックという概念を一回校則から取り外して、髪型は自由、というのはとても大切だと思うんですけど、世間の方々から見て高校生らしい髪型をベースに、ツーブロックは校則の中から、先生と話し合っ、取り除いてもらいました。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、なるほど。それは、Bさんが一人でやったの。みんなでやろうとしたの。

【参加者B】

他の人たちと協力して、これちょっと考え方が古いついていうと、とても失礼なんですけれども、髪のカリ方だったりとか。美容師の方とかと結構相談したりして、ツーブロックでお願いしますっていうと、それ以外の髪型が想像できないらしくて、美容師の方も。カリ方が困ってしまう、じゃあどうやって切ったらいいの、みたいな。そのほかにも、表記をカバるだけで生徒への伝わり具合がちょっとカバるんじゃないですか、と話したら、分かりました。ということで了承いただいて、ツーブロック禁止で校則違反、ということではなくて、高校生らしい、みたいな、高校生に似合う髪型でお願いしますということになりました。

【長野県知事 阿部守一】

どうもいい話をありがとうございます。やっぱり変だと思ったら言っ、いくってことが大事だよ。世代、たぶん時代がカバるとこれまでの常識は今の非常識みたいになっ、ちゃうこともあるので。冒頭も言っ、ように、私の常識感とたぶん皆さんと違っ、ているし、ただそれどっちが正しいとか間違っ、ているとかいう話じゃなくて。なんでそういうルールになっ、ているの、ということをもも論からみんなで考えるといい解決方策が出てくると思うので、そういうこと、いろんところで問題意識を持っ、てもらえるとありがたいなと思っ、います。あと、Hさん、Iさん、さっき観光について、このままでは旅行者のニーズにカバられないから、未発掘のコンテンツを探し出したという話がありましたけど、なんか今こんなことを観光資源にしたらってアイデアあるんですか。

【参加者H】

飯山市で、人間ドックと観光を掛け合わせたものをやっ、ていると思うんですけども、歯科健診が義務化されるんですね、全国的に。それと何か合わせたものを考えていけたらなと思っ、ています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、なるほど。そういう発想にいくのね。すごいね。医療観光、海外から日本の優れた医療技術を求めてきてもらったりということもありますし、歯科健診が義務化されるならそれで長野県に呼んじゃえっていうのは、歯科医師会の皆さんが聞いたら喜ぶ話だと思うので。長野県、やっぱり自然に恵まれているので、森林セラピーとか、健康長寿県だし、森林の中で癒しの効果は実証されているので、そういうものと医療であったり、今の歯科健診であったり、そういうのは、確かにうまく結び付けられたらいいなと思いますので、いいアイデアをありがとうございます。皆さんからお話をいただいたこと、ひととおりコメントしてきましたが、もう少しクロスしていろいろ語り合いたいなと思うんですけど、今までの話を聞いていて、自分のところのテーマじゃなくてもいいし、自分の話でもいいですけど、もっと深めていきたいとか、県はいったい何を考えてるんだとか、県としてこんなことを、例えば、県にはできないことでも、さっきの地域通貨みたいに、県も関心を持って経済界や市町村の皆さんと取り組める話もあるし、もっと大きな話であれば、国レベルでもっとこういうことをやるように知事から提案しろっていう話でもいいですけど、今までの話を聞いていて発言したい人がいたらどうぞ。

Eさん、Fさんどうぞ。

【参加者E】

観光資源についてちょっと話をさせていただきたいんですけども、僕の地元で、リゾート開拓というか工事を1件していて、新しい観光として話が進んでいます。そんな中で結構昔から下諏訪町とかの宿場として、話が進んでいたはずなんですけれども、その中で長野県の中でも問題が出てきているのは、ソーラー発電、メガソーラーですね。長野といたら自然とおいしい空気、きれいな空、みたいなそんな感じのところじゃないですか。長野県の美しさがあるようなところで、畑だったりソーラーパネルで埋まっちゃって結構自然がなくなっているっていうのは、自分的には問題だなって思って。今自分の家の周りでも、畑がソーラーパネルになるっていうのがすごい大騒ぎになっていて、そのせいで景観もだめ、うち観光業なので、景観もだめになるし、それと一緒に、近くの畑もだめになっちゃって、とか、そんな問題がいろいろ出て。長野県の対応として、もともとソーラーパネルっていうのが、地面の上に直置きするものじゃなかったと僕は思っているんですけど、そういうのっていうのはどういう対応で今後いく、考えなのかっていうのを聞きたいです。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。県の環境アセスの対象にしたりして一定のルールは作っているんですけども、市町村からも、もっと厳しいルールを作るべきだという意見が出ているので、次の総合計画の中では考えたいなと思っているけど、考える方向でいいかな。昨日ちょうど佐久地域の市町村長の皆さんと話した時も、全く皆さんと同じ意見が出ていたので、県としてもこれは避けて通れない話だと思っています。ただ問題はというか、県はできるだけのことをしたいと思っていますし、今、温暖化対策法が改正されて、促進区域というものができたんです。長野県は自然エネルギーを普及拡大しなければいけないという立場でもあるので、

促進区域を定める、市町村が決めるんですけど、その基準を作ったんですけど、その中には、例えば優良農地はだめとか、森林伐採して作る場所は促進地域にしないとか、あるいは隣のところと近接してもろに見えるようなかたちではなくて、一定程度幅を置いてそこに植栽するとか、そういう前提でそういう条件で促進地域にするというルールにしています。ただこれは促進地域なので、別に促進地域じゃなくても太陽光パネルの設置ができればいいので、そっちの方は、実は御指摘のとおり、まだそうした配慮が十分ではないと思うので、よく考えていきたいと思います。問題は、と言ったのは、日本の社会って所有権が強くと守られているわけですね。要は自分が所有権を持っている物なんだからとりあえず自分の好きにしていいたい、っていう発想が、結構日本の社会、発想だけじゃなくて規則的に所有権保護が非常に強くなっているんで、所有権に制限を加えるようなことは法律でなければできないと。なんというか法律でなら、この土地の利用規制をこうしようとかやってくれるといいですけども、法律の根拠がなく、条例だけでこれは使っちゃいけないとかやりだすと、これは所有権をみだりに侵害するというかたちにもなりかねないので、そういう意味ではこの環境問題と経済的活動の折り合いをつけるのは、本当は国レベルの法制化が必要な部分かなと思っていますが、とはいえそんなことを言っても始まらないので、国にも求めると同時に県としてもやれることを考えたいと思っています。私は全く同じ問題意識で、近くにいっぱいできて景観悪いところ、あるよね。あるいはこんな休憩施設つくっちゃって大丈夫なの、っていうこともあるので、森林法とか、個別の許可が必要なところは許可していますが、許可制度になっているので、そういうところはこういうふうにしてくださいと言え。そうじゃないところはなかなか権限が及んでいないので、しっかり考えたいと思います。ありがとうございます。

【参加者E】

ありがとうございます。すみません、一つだけ追加で質問していいですか。長野県で太陽光パネルの推進の企画が前にあったじゃないですか。今も続いているんですかね。それで企業の選定が、あったじゃないですか。募集していて。

【長野県知事 阿部守一】

屋根ソーラーの共同工事だね。

【参加者E】

そうですね。その流れで、土地に設置するソーラーパネルの企業として、この企業の対応がいいので、この企業でお願いしていただけると、別に問題はないですよ、みたいな制度を作っていただけると。今、自分の隣の家の畑を改築するってなって、いろんな競争というか企業がすごい来て、周りの住民たち全員を集めて話をしているんですけども、そういうのが問題発生しないかと、学生が言うのであれなんですけど、制度を作っていただけると本当にありがたいと思います。

【長野県知事 阿部守一】

分かりました。ちょっとただちに今の問題解決できるかっていうのは、難しい部分もあ

るような感じがしているんですけど、土地の所有者がこれはこうしたいと言ったときに、それは絶対やめろというふうに言うのは、なかなか今の法制上は難しいところがありますけれども、どこまでできるかというのはしっかり考えて対応したいと思っておりますのでありがとうございます。

【参加者E】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

ほかにどうですか。はい、Dさんどうぞ。ほかのみんなも手を挙げているから、簡潔にお願いします。

【参加者D】

分かりました。先ほどもちょっとお話をさせていただいたフリースクールの件なんですけど、長野地域にいくつかフリースクールだったり面白い幼稚園だったりがあるので、先ほど知事がおっしゃっていた、長野県は自然がすごい豊かなので、その自然と教育という2つをかけて、移住者とかを増やして行って、教育とか自然を売りにした県にしていけば、すごく面白い県になって行って発展していくんじゃないかなと思ったので、そういうフリースクールとかも支援していただけたらうれしいなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。いい提案だと思います。なかなか今の公共教育の制度の中では、公立学校とか私立学校で、しっかり認可を受けている学校と、そうじゃないフリースクールみたいな学校は、税金の投入の仕方が全く違うので、もう少し行っている子どもたちの立場に立って考えていく必要があるかなと思っていますので、また自然を活かして多くの人たちを呼び込むこともできるんじゃないかっていうのは、全くそのとおりだと思うので、よく考えたいと思います。ありがとうございます。

Cさんどうぞ。

【参加者C】

ありがとうございます。僕からは、皆さんがこのような活動を進められて知事の前で発表させてもらっているんですけど、そもそもそこに至るまでの部分でハードルが高いと感じています。といいますのも、中学生や高校生が何か企画をやったり、県全体で地区を巻き込んでやるというのは、やはりちょっとリスクがあるんじゃないのというふうに見られたりして、いきなりそれを避けようとする動きがあるように感じられます。そこで、教育的サンドボックスと呼ばれるようなものを、場づくりをしていただけるとありがたいなと思っています。といいますのも、高校生が何かこういうことをやっても、仮に失敗したとしても許される空間づくり、何かをやりだしてもし仮に失敗しても、仕方がない、次につなげていこう、そういうような場づくりがあつてこそ、私たちが何か企画をすることができると思っています。例えば、もちろん人の面でもそうですし、補助金、お金の面でもそう

ですし、例えば僕が別にやらせてもらった活動では、市や教育委員会から、後援であったり応援する人がいなければ何もできないような活動もあったりしました。ですので、そういうのが許される雰囲気づくりがあると、新しい発想を持った高校生がこうやって県や各地域で活躍することができるのではないかなと思いますし、また是非そういう場を作っていただけると助かります。

【長野県知事 阿部守一】

教育的サンドボックス制度、いいアイデアだと思うので、ちょっと考えます。ありがとうございます。あと、Hさん、Iさんどうぞ。

【参加者 I】

観光についてのことなんですが、観光客が増えるシーズンに公共交通機関が混雑していると、観光客が不利に感じる可能性があると思うんですが、そこで私たちが考えたのは、県職員の方が通勤時間フレックスタイム制度を導入してはどうかと考えています。そうすることで列車は民間企業に固まり、混雑が解消されれば、観光客が快適に公共交通機関を使えることができると考えています。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございます。フレックスタイムは重要な話だと思いますし、学生のみならずもそういうかたちで。公共交通はどちらかという今は混雑して大変だというよりは、長野県の場合は利用者が少なくどうやって維持しようかという側になっているので、ゼロカーボンの観点からもあるいは地域の足を確保する観点からも、できるだけ公共交通使ってくださいというのが今の方向です。だからお話あったように、観光のハイシーズンの時の対策というのは、確かに考えていく必要があるのかなと思いますので、公共交通全般をどうするかという中で、観光客の利用の視点をどうするかということも考えていきたいと思いますので、ありがとうございます。

まだ話し足りない人もいるかもしれないですけど、そろそろ予定の時間になりつつあるので。これで事務局に返します。

【事務局】

はい。今日は皆さん、いろんなお話を聞かせていただいてありがとうございました。予定の時間になりましたので、これで今日の県政タウンミーティングを終了させていただきます。本当に皆さんありがとうございました。

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さんありがとうございました。またいろいろ、それぞれの分野で頑張ってください。ありがとうございます。